

水辺の住人2 「ミシッピ°アカミガメ」

今回は、Part 2 芦ヶ池の「ミシシッピアカミミガメ」を紹介します。
芦ヶ池にはこのカメがたくさん生息しています。実は、このカメの正体は縁日などでもよく見かける「ミドリガメ」の幼体が育ったものです。子どもたちに人気のあるカメですが、都市部を中心とした水辺環境に蔓延し、身近な生き物となっている一方で、地域の生態系に深刻な影響を及ぼしています。

「(ふと、考えるに) カメってどのくらい寿命があるんだろう・・・。」

調べてみると、ある統計では下の表のような数字でした。同じペットとして飼う生き物でもネコやイヌの場合に比べて、カメは長生きですね。「鶴は千年、亀は万年」・・・長命で縁起が良いという諺(ことわざ)の通り、寿命は40年にも及びます。もしかしたら、高齢化の日本社会ではミシシッピアカミミガメは悲しい別れの少ないペットかもしれません。実際、全国の家庭でのペットとしての飼育数は約180万匹もいます。しかし、ヒトの平均寿命を考えると・・・お父さんが欲しがると子どものために縁日でミドリガメを買い求める時には自分の残りの生涯すべてをともにするペットとして飼育する覚悟が必要ですね。感慨深いです。

○ヒト(日本人) 女性の平均寿命	87.7 歳
○ヒト(日本人) 男性の平均寿命	81.6 歳
○ネコの平均寿命	14.2 歳
○イヌの平均寿命	14.0 歳
○ミシッピ°アカミガメの寿命	20~40 歳

少し前に日本動物愛護協会協賛の衝撃的なCMをテレビで見ました。女の子とお母さんが子犬の入った段ボールを木の下に置きます。泣いている女の子の横で、お母さんが優しい声で言います。「親切な人に見つけてもらってね」

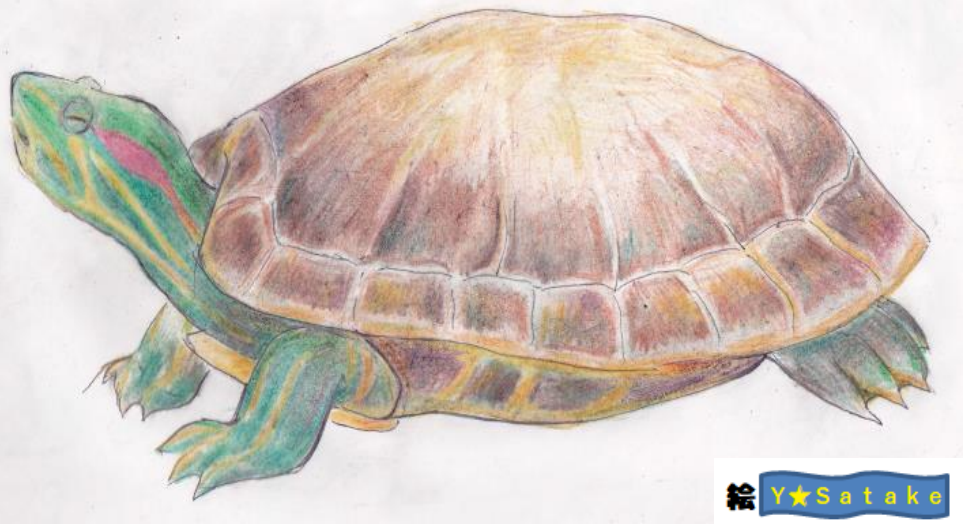
【ナレーション】 優しく聞こえても、これは犯罪者のセリフです。どんな理由があろうと、どんなに心を痛めようと、動物を捨てること、虐待することは犯罪です。

捨て犬と同じように「捨てガメ」という言葉はあるのでしょうか？そもそもミシシippアカミミガメは日本の在来種ではなく、北米からペットとして輸入されたものです。飼うのが苦になり、飼いきれなくなった心ない飼い主がCMと同じように池や川に放した結果、「捨てガメ」が「野良ガメ」化してしまったのです。

ミシシippアカミミガメは体色が緑色で、顔に赤いラインが入っていて小さい時はカワイイですが、30センチくらいまで大きくなります。エサもたくさん食べるし、噛み付くこともあります。ヒシなどの在来の水生植物の食害や絶滅危惧種のホンイシガメへの影響もあります。このカメの存在による生態系の混乱は、一種の「攪乱(かくらん)」です。

【水辺の博物館】

学名：*Trachemys scripta elegans*
別名：ミドリガメ
分類：カメ目
ヌマガメ科



ヒトに連れてこられた外来生物たちは、皆、なんだかとても切ない存在です。環境の面では、彼らは日本の水辺の悪役です。??そもそも発端はヒト・・・。人間活動の影響で生態系の回復力が劣化しているなら、ヒトは知性と科学技術で環境負荷を吸収し、問題を科学的に前向きに解決していきたいなあ。 (弥)